

大学進学時の情報利用の実態と大学への期待感

—山口大学学生対象調査結果にみる学部別特性—

富永 倫彦
林 寛子

要旨

本稿は、山口大学の学生が受験時にどのような情報を利用し、どのような点に期待を抱いて受験したか、学部別にその実態を明らかにすることを目的としている。調査データは平成17年4月に大学入試センター共同研究の一環として山口大学アドミッションセンターが行った事例研究の結果に基づくものである。調査結果から山口大学の学生は大学進学時の情報利活用体験に乏しく、志望の重要な条件として「国立大学であること」が優先され、大学の内容に関する期待は希薄であることが判明した。

キーワード

進学情報，入試広報，受験生の期待度，学生の大学評価，事例研究

1. はじめに

大学ユニバーサル化時代を迎え、大学教育の社会に果たす役割が変化しつつある中で、入学者選抜のあり方が問われている。平成11年12月の中央教育審議会答申においても、「これからの入学者選抜のあり方は、大学と学生のよりよい相互選択を図ることが重要になる。つまり、大学側からみると『学生を絞り込む』のではなく、『求める学生を見出す』ことが求められ、学生の側からみると『大学から選ばれる』のではなく『大学を主体的に選択する』ことが求められるのである。このため、各大学（学部・学科）はその教育理念、教育目的、教育課程の特色などに応じた多様な確固とした、特色ある入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）の確立を目指すべきであり、入学者選抜方法もこの受入方針に沿って設計すべきである」と提言している。

また、国立大学が法人化して2年を経過し

ようとしている。こうした中で、国立大学の入試広報活動も変化をみせつつある。平成17年10月に大学新聞社が行った「国立大学の広報活動に関する意識調査」報告によれば、5年前と比べて広報活動が積極的になった国立大学は97.0%、広報予算枠が拡大済み54.4%、広報活動を計画的に行っている76.4%、私立大学の広報活動は参考になる91.2%等の意識が明らかになり、広報媒体としては独自サイト、進学系ポータルサイトを含めネット重視に移っているという。まさに、国立大学も入試広報活動を重要視する時代になっている。

このような背景からも、大学から受験生への情報提供は従来以上に重要である。受験生が受験校決定に際して求めている情報内容などのニーズを明確に把握しておかなければならない。当然のことながら、大学は教育理念、教育目標を明確にした上で、具体的にイメージしやすいアドミッション・ポリシーを明示し、大学の特色を明らかにすることが求められることになる。

本稿は、山口大学に入学した学生の大学進学時における情報活用の実態と大学の内容に対する期待度を中心として、学部別学生の実態を明らかにしようとするものである。調査データは大学入試センター共同研究の一環として山口大学アドミッションセンターが平成17年4月に行った事例研究の結果に基づくものである。別途、大学入試センター研究開発部が平成16年10月に実施した「進学情報の利活用に関する調査」の高校生対象調査との比較分析を可能にするため、本調査の調査項目の一部を共通化して実施している。

なお、アドミッション・ポリシーに関する調査項目については、本稿の分析対象から除外した。

2. 調査の概要

2.1 実施時期

平成17年4月6日

経済学部・理学部・農学部2年生オリエンテーション時

平成17年4月7日

教育学部2年生オリエンテーション時

平成17年4月8日

人文学部・医学部・工学部2年生オリエンテーション時

2.2 調査対象

山口大学全学部2年生(平成17年4月1日現在)＝悉皆調査

2.3 調査方法

同一日に配布・回答・回収

回答はマークシート方式

2.4 調査票の構成

Q1：山口大学の志望順位と受験理由について

1-1 山口大学の志望順位

1-2 在籍学部の志望順位

1-3 山口大学の受験理由

1-4 在籍学部の受験理由

Q2：受験時の情報利用について

2-1 進学情報源の利用の程度(4段階評定)

2-2 進学情報の重視の程度(4段階評定)

Q3：受験校決定時の期待度と入学後の印象について

18項目について受験時の期待度と入学後の評価(各4段階評定)

Q4：大学教育を受ける目的について

入学1年後に考える大学教育の目的(4段階評定)

Q5：アドミッション・ポリシーについて

5-1 アドミッション・ポリシーの用語認知度

5-2 在籍学部・学科のアドミッション・ポリシー各項目の合致度(自己評価4段階評定)

[資料として当該募集単位のアドミッション・ポリシーを添付]

5-3 アドミッション・ポリシーの受け止め方(4段階評定)

5-4 アドミッション・ポリシーとして明示すべきこと(4段階評定)

*Q5については、本稿の分析対象から除外した。すべての調査項目の分析は、富永(2006)「山口大学における大学進学時の情報利用に関する事例研究」(大学入試センター)を参照されたい。

2.5 回収結果

同一時間内に配布、回答、回収を行ったため、当日の出席者＝配布数に対する実質的な回収率は100%にきわめて近い数値であると判断できる。ただし、農学部のみ3年生との合同オリエンテーション時に実施したため回収の不備が生じた。

表1 回収率

学部	人文学部	教育学部	経済学部	理学部	医学部	工学部	農学部	合計
在籍数	195	267	403	234	199	553	132	1,983
回収数	183	252	378	202	199	535	65	1,814
回収率	93.8	94.4	93.8	86.3	100.0	96.7	49.2	91.5

3. 調査対象者の特性

学科と他学科（生物資源環境科学科・生物機能科学科）を分けて集計することが妥当と考え、表2のように集計した。なお、記述においては、医学部は学科名まで記載するが、農学部は獣医学科以外の学科を農学部とし、農学部獣医学科と区別する。

3.1 学部別人数構成

学部別人数構成は表1のとおりであるが、学部別集計においては、本調査内容の特性から医学部の医学科と保健学科、農学部の獣医

表2 学部別人数構成と回収率

学部	人文	教育	経済	理	医		工	農		合計
					医学科	保健学科		農学	獣医学科	
在籍数	195	267	403	234	82	117	553	103	29	1,983
回収数	183	252	378	202	82	117	535	50	15	1,814
回収率	93.8	94.4	93.8	86.3	100.0	100.0	96.7	48.5	51.7	91.5

(在籍数 平成17年5月1日現在)

3.2 入学区分

入学区分別人数構成比は表3のとおりである。全学では、前期63.0%、後期19.3%、推薦12.8%、AO3.6%、その他0.8%で、一般

選抜による入学者が82.3%を占める。入学区分の「その他」には、帰国子女特別選抜、社会人特別選抜などによる入学学生が含まれる。

表3 入学区分

	前期		後期		推薦		AO		その他		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
全体	1143	63.0	350	19.3	233	12.8	65	3.6	15	0.8	
人文	113	61.8	28	15.3	28	15.3	10	5.5	3	1.6	
教育	170	67.5	57	22.6	18	7.1	6	2.4	1	0.4	
経済	227	60.1	65	17.2	63	16.7	19	5.0	—	—	
理	110	54.5	50	24.8	34	16.8	8	4.0	—	—	
医	医学科	55	67.1	17	20.7	10	12.2	—	—	3	2.6
	保健学科	67	57.3	30	25.6	17	14.5	—	—	—	—
工	361	67.5	88	16.5	53	9.9	22	4.1	8	1.5	
農	農	32	64.0	12	24.0	6	12.0	—	—	—	—
	獣医	8	53.3	3	20.0	4	26.7	—	—	—	—

表4 男女比

	男		女		
	度数	%	度数	%	
全体	1101	60.7	707	39.0	
人文	52	28.4	131	71.6	
教育	100	39.7	151	59.9	
経済	241	63.8	136	36.0	
理	150	74.3	52	25.7	
医	医学科	59	72.0	23	28.1
	保健学科	16	13.7	101	86.3
工	453	84.7	78	14.6	
農	農	21	42.0	29	58.0
	獣医	9	60.0	6	40.0

3.3 男女比

男女の性別占有率は大学全体では男子60.7%，女子39.0%である。学部別にみると表4のとおりである。男子が7割以上を占める学部は工学部84.7%，理学部74.3%，医学部医学科72.0%である。女子が7割以上を占める学部は，医学部保健学科86.3%，人文学部71.6%である。

3.4 現浪比

現役，浪人，大検などの占有率は表5のとおりである。全体では，現役74.8%，浪人23.1%，大検その他0.9%となっている。浪

人がきわめて多いのは医学部医学科で76.8%，次いで農学部獣医学科46.7%が比較的多く、他学部の浪人は多くても20%台である。

3.5 県内外比

出身高校による県内，県外出身者の占有率は，表6のとおりである。全体で県内占有率は29.6%，県外占有率は69.7%である。県内出身者が比較的多いのは医学部保健学科38.5%で，経済学部36.0%，医学部医学科30.5%，教育学部30.2%の順になっている。農学部獣医学科は県外出身者が93.3%を占め圧倒的に多い。

表5 現浪比

	現役		浪人		大検		その他		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
全体	1357	74.8	419	23.1	2	0.1	14	0.8	
人文	154	84.2	24	13.1	—	—	3	1.6	
教育	201	79.8	50	19.8	—	—	1	0.4	
経済	305	80.7	67	17.7	—	—	1	0.3	
理	146	72.3	54	26.7	—	—	—	—	
医	医学科	19	23.2	63	76.8	—	—	—	—
	保健学科	80	68.4	31	26.5	—	—	3	2.6
工	404	75.5	113	21.1	2	0.4	6	1.1	
農	農	40	80.0	10	20.0	—	—	—	—
	獣医	8	53.3	7	46.7	—	—	—	—

表6 県内外比

	県内		県外		
	度数	%	度数	%	
全体	537	29.6	1264	69.7	
人文	42	23.0	139	76.0	
教育	76	30.2	173	68.7	
経済	136	36.0	240	63.5	
理	50	24.8	152	75.3	
医	医学科	25	30.5	57	69.5
	保健学科	45	38.5	72	61.5
工	147	27.5	382	71.4	
農	農	15	30.0	35	70.0
	獣医学科	1	6.7	14	93.3

4 . 山口大学生の進路選択と情報利用

4.1 志望順位と受験理由

山口大学は，表7で示したように「第一志望」で入学した学生47.2%，「第二志望以下」で入学した学生は52.7%で，「第二志望以下」で入学した学生が全体の半数を超えている。

学科別に志望順位をみると，「第一志望」で入学した学生が多い学科も散見されるが，「第二志望以下」で入学した学生が多い学科のほうが多数である。しかし，商業教員養成

課程は全員が第一志望であった。この課程を設置している大学が他にないからであろう。

山口大学が第二志望以下だった学生の第一志望校を設置者別にみると，「国立大学」86.6%，「公立」6.2%，「私立」4.7%，「不明」2.5%である。

注目すべきは山口大学の受験理由である。全体では，「国立大学だから」72.1%が，他の項目と比較して突出している。

志望順位別に見ると，表6に示したように，「第二志望以下」だった学生の受験理由は，「入学難易度が自分に合っていたから」「第

「一志望に合格できなかったから」の項目で第一志望者より高く、他の項目は第一志望者のほうが高い。

また、入学区分別では図1のように前期試験入学者は「国立大学だから」74.1%「入学難易度が自分に合っていたから」67.5%である。山口大学が「国立大学だから」受験した学生はどの入学区分でも多いが、前期試験入学者に強い傾向がある。また、「入学難易度」による受験決定の判断は、前期試験入学者にきわめて強い傾向とみることができる。「第一志望に合格できなかったから」は、後期試験入学者68.0%で、他の入学区分と比べ突出している。

次に、学部・学科の志望理由を示したのが表9である。全体で「やりたいことが明確に決まっていたから」58.1%、「入学難易度が自分の学力に合っていたから」31.3%、「入試科目が自分に合っていたから」27.1%、「就職に有利だと思ったから」7.6%となっている。明確な目的意識を持って受験してきた学生は全体で6割に満たない。

学部別にみると、医学部医学科、農学部獣医学科、人文学部は8割以上の学生が「やりたいことが明確に決まっていたから」と答えている。それに対し、経済学部は「やりたいことが明確に決まっていたから」と答えた学

表7 学科別志望順位

		第一志望		第二志望以下	
		度数	%	度数	%
全体		856	47.2	955	52.7
人文	人文社会	45	47.4	49	51.6
	言語文化	42	48.3	45	51.7
教育	教員養成	45	42.1	62	57.9
	実践臨床	7	31.8	15	68.2
	情報科学	21	52.5	19	47.5
	健康科学	11	25.6	32	74.4
	総合文化	12	30.8	27	69.2
経済	経済	42	45.7	50	54.4
	経営	56	43.4	72	55.8
	国際経済	24	40.7	35	59.3
	商業教員	8	100.0	—	—
	経済法	32	37.7	53	62.4
理	数理科学	11	26.8	30	73.2
	自然情報	40	39.6	61	60.4
	化学	36	60.0	24	40.0
医	医学	44	53.7	38	46.3
	保健	54	46.2	63	53.9
工	機械	41	48.8	43	51.2
	応用化学	41	46.6	46	52.3
	社会建設	35	44.9	43	55.1
	電気電子	53	62.4	32	37.7
	知能情報	50	66.7	25	33.3
	機能材料	44	56.4	34	43.6
農	デザイン	22	46.8	25	53.2
	生物資源	8	42.1	11	57.9
	生物機能	19	61.3	12	38.7
	獣医	7	46.7	8	53.3

表8 志望順位別受験理由

項目（複数回答）	全体		第一志望		第二志望以下	
	度数	%	度数	%	度数	%
入学難易度が自分に合っていたから	1030	56.8	423	49.4	606	63.5
希望の学部・学科があったから	813	44.8	433	50.6	378	39.6
教育内容に特色があったから	159	8.8	107	12.5	51	5.3
研究業績が高かったから	38	2.1	22	2.6	16	1.7
国立大学だから	1307	72.1	631	73.7	675	70.7
環境がよかったから	158	8.7	105	12.3	53	5.6
地元の大学だったから	323	17.8	205	24.0	117	12.3
推薦入試やAO入試があったから	203	11.2	172	20.1	30	3.1
第一志望に合格できなかったから	326	18.0	2	0.2	324	33.9

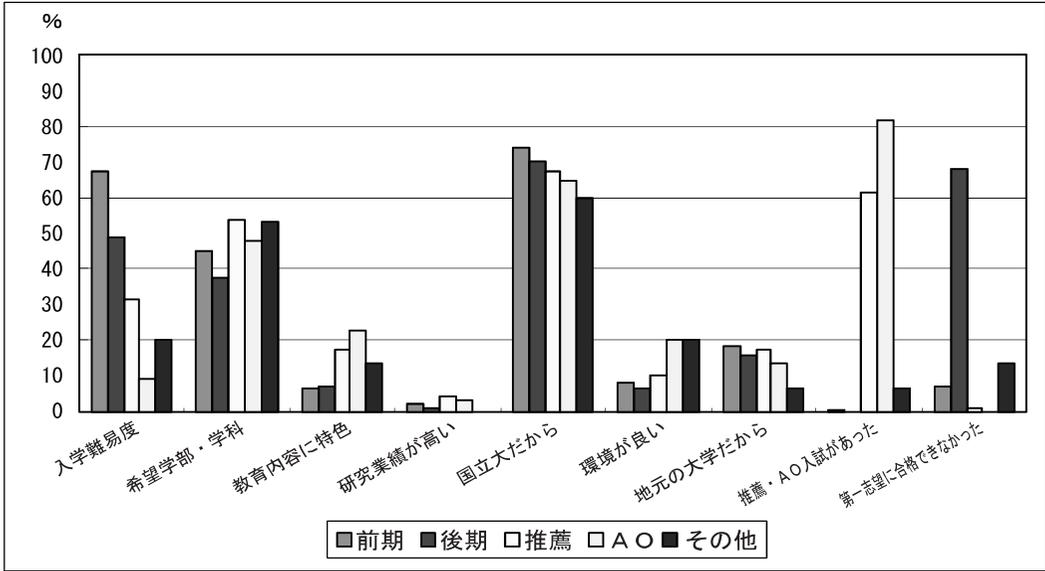


図1 入学区分別大学志望理由

表9 学部・学科志望理由

	全体	人文	教育	経済	理	医		工	農	
						医	保健		農	獣医
入試難易度	31.3	21.3	43.3	29.4	25.7	13.4	25.6	36.8	32.0	20.0
入試科目	27.1	25.1	35.3	26.5	36.1	6.1	14.5	27.5	28.0	6.7
やりたいこと	58.1	80.3	62.7	38.6	62.9	89.0	68.4	51.2	70.0	86.7
就職に有利	7.6	0.6	2.8	13.0	2.0	2.4	22.2	8.4	8.0	—
あまり考えないで選んだ	13.1	6.0	10.7	20.9	13.4	2.4	9.4	13.8	10.0	6.7

生は38.6%と最も少ない。また、「あまり考えないで選んだ」では経済学部は20.9%に及んでおり最も多い。次いで工学部、理学部の順となっている。

4.2 受験時の情報利用について

4.2.1 情報の利用度

学生が進路選択時に進学情報をどのような情報源から得たかを示したのが表10である。設問はそれぞれの項目について「全く利用しなかった」「あまり利用しなかった」「ある程度利用した」「よく利用した」の4段階評価を求めたが、表10においては「よく利用した」「ある程度利用した」を合算して集計し

た。全体をみると、「大学が作成した公表資料やホームページ」からの情報入手が65.7%で一番多く、次いで「高校で作成した進学資料」56.2%、「受験雑誌からの情報」52.1%となっている。

学部別にみると、いずれの学部も「大学が作成した公表資料やホームページ」の利用が最も多いが、人文学部はとりわけ77.4%と多い。次いで、農学部獣医学科73.3%、医学部保健学科72.7%、農学部72.0%、教育学部71.7%となっている。「高校で作成した進学資料」は、医学部保健学科が71.8%で他学部と比較すると特に高い。当然のことながら、浪人が76.8%を占める医学部医学科では

29.3%で最も低い。代わりに「塾・予備校等関係者から提供される選抜資料や試験問題等の情報」が78.1%と進学情報源の中で最も利用度が高いという点是他学部の傾向と大きく異なる。また、農学部獣医学科は「大学が作成した公表資料やホームページ」「受験雑誌からの情報」とともに73.3%で利用度が高く、

「受験雑誌からの情報」は他学部と比較して最も利用されている。また、「友人先輩からの情報」も40.0%で全学部の中で最も高い。「オープン・キャンパスや大学外で行う入試説明会・受験相談会によって得た情報」は全体にみるとそれほど利用されている進学情報源とはいえないが、医学部医学科34.2%、農

表10 志望校選択時の情報源の利用度 (%)

	全体	人文	教育	経済	理	医		工	農	
						医	保健		農	獣医
高校資料	56.2	61.8	58.2	57.8	57.5	29.3	71.8	52.7	54.0	60.0
大学資料	65.7	77.4	71.7	59.3	64.7	58.5	72.7	62.7	72.0	73.3
受験雑誌	52.1	61.2	58.6	45.5	52	51.9	66.7	46.5	56.0	73.3
塾予備校	42	35.7	42	34.2	42.6	78.1	55.6	40.4	46.0	53.3
友人先輩	23.1	20.9	25.2	21.9	20.9	30.5	25.6	23	16.0	40.0
家族	18.9	16.5	23.6	18.3	17.3	19.5	21.4	17.9	18.0	26.7
出前授業	6.2	6	4.8	7.7	5.9	6.1	4.3	6.2	8.0	13.3
講義等	6.1	6.6	2.4	7.9	7.4	6.1	3.4	6.2	10.0	6.7
説明会	19.7	31.9	23.3	18.3	14.9	34.2	26.5	13.1	14.0	33.3
マスコミ	12.6	17.6	18.4	10.6	12.9	7.3	19.7	7.9	20.0	20.0

学部獣医学科33.3%、人文学部31.9%などは比較的利用されている学部であるといえるだろう。

この設問については、大学入試センターが実施した同じ内容項目の調査（全国の高校生対象）結果と比較しておきたい。図2に示したとおりである。

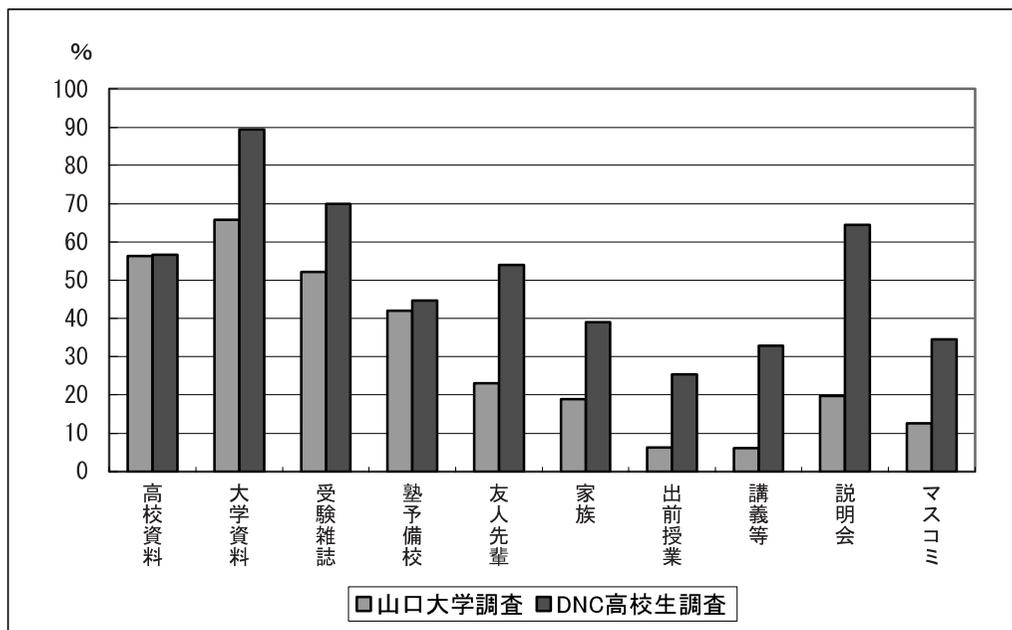


図2 進学情報源の利用度 (DNC調査との比較)

この比較は、現在進学問題に直面している高校生とすでに大学入学を果たした大学生によるものであるから、必ずしも比較が妥当であるとはいえないが、相応の傾向はみられる。

全国の高校生は、山口大学の学生に比べ、多くの情報源を利用している。山口大学の学生が最も利用していた「大学が作成した公表資料やホームページ」の利活用にも大きな差がある。また、注目したいのが、「オープン・キャンパスや大学外で行う入試説明会・受験相談会によって得た情報」で、全国の高校生は64.3%も利用している。全国の高校生の多くがオープン・キャンパスや入試説明会を情報源として利用していることを考慮すると、山口大学も大学の公表資料やホームページを充実するだけでなく、オープン・キャンパスや入試説明会も戦略的に行い、情報を発信していく必要がある。

4.2.2 情報の重視度

次にどのような情報をどの程度重視したか

をみたのが、表11である。50%以上の重視度がみられるものを太字・網掛けで示した。全体をみると、「入学の難易度に関する情報」86.7%、「入試科目に関する情報」83.7%で、この2項目を強く重視しており他の項目に関してはそれほど重視度が示されなかった。

学部別にみると、人文学部では「入学の難易度に関する情報」と「入試科目に関する情報」の他に「大学教員の研究内容に関する情報」「多様な履修コースに関する情報」「資格取得の支援体制」「卒業後の進路状況に関する情報」に50%以上の重視度がみられ、他学部と比較して多くの情報を重視しているといえる。逆に、理学部、医学部医学科は、「入学の難易度に関する情報」「入試科目に関する情報」以外の情報はきわめて低い。

この情報の重視度についても進路情報源の利用度と同様に、大学入試センターが行った高校生対象の調査と比較してみると図3のとおりである。全ての項目において山口大学の学生よりも全国の高校生のほうが情報を重視

表11 志望校選択時の情報の重視度

(%)

	全体	人文	教育	経済	理	医		工	農	
						医	保健		農	獣医
推薦AO	20	24.0	15.1	24.9	20.4	14.6	22.2	17.9	14.0	26.7
入試科目	83.7	84.2	88.8	78.0	84.1	79.3	88.0	84.1	88.0	86.7
難易度	86.7	93.4	88.1	84.1	81.1	89.0	93.2	86.1	88.0	73.3
研究内容	39	58.5	32.9	21.4	48.3	26.8	32.5	44.2	66.0	60.0
少人数	12.3	21.9	16.9	11.6	9.4	17.1	7.7	9	6.0	20.0
履修	30.9	59.0	38.7	26.0	35.6	20.7	27.4	21.9	24.0	46.7
カリキュ	27.1	42.6	33.9	24.2	24.4	39.0	31.6	18.7	24.0	40.0
施設設備	26.6	23.0	12	20.1	28.4	25.6	45.3	32.9	38.0	46.7
実習演習	20.9	20.8	16.7	13.0	23.8	22.0	41.4	20.4	42.0	33.3
補習授業	7	8.7	1.6	7.4	7.5	4.9	9.4	7.9	8.0	13.3
資格取得	48	69.4	68.8	43.4	35.3	37.8	88.0	33.1	32.0	60.0
奨学金	24.9	29.5	25.5	26.2	25.7	11.0	36.8	21.9	22.0	20.0
教育理念	21.4	26.8	18.5	19.3	21.4	28.1	30.8	19.4	18.0	26.7
社会評価	33.2	38.3	29.3	36.0	29.2	25.6	41.0	32.9	28.0	33.3
卒業進路	56.5	51.9	66.9	53.9	49.5	47.6	82.1	53.6	56.0	60.0
入学金等	39.8	46.5	44.6	41.3	32.7	28.1	48.7	37.8	28.0	40.0
ク活動	17.6	20.2	22.7	21.5	17.3	14.6	19.7	11.4	22.0	6.7
交通の便	23.4	31.7	27.5	27.8	17.3	17.1	24.8	18.2	30.0	13.3
住環境	29.7	35.5	39.4	34.8	29.2	18.3	30.8	21	28.0	40.0
学生の声	15.9	24.6	17.9	19.6	11.9	20.7	17.1	9.9	14.0	26.7

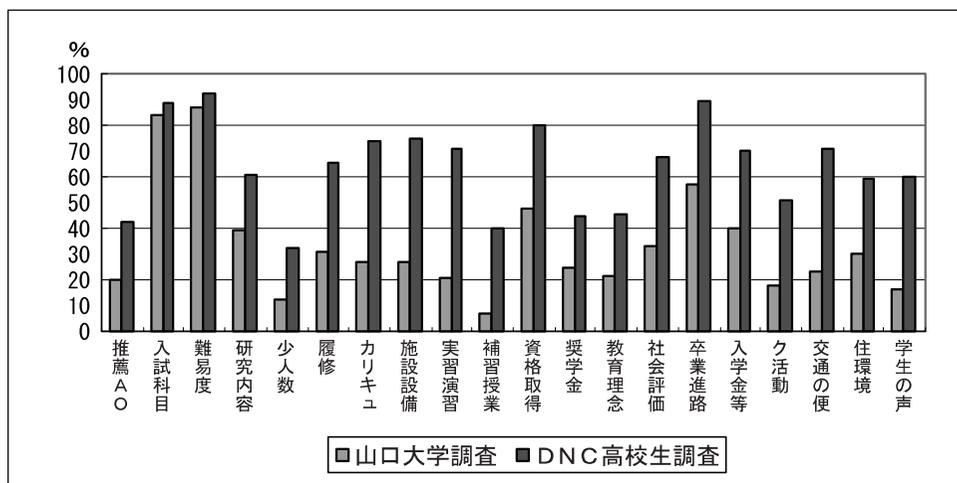


図3 進学情報の重視度 (DNC 調査との比較)

している。山口大学の学生が全国の高校生の実態に近い項目は「入試科目に関する情報」と「入学の難易度に関する情報」だけである。大学生調査は2年生の4月実施であったため入学後一年も経過しており、進学情報そのものへの関心が冷めていることはあるかもしれない。とはいえ、「入試科目に関する情報」や「入学の難易度に関する情報」を重視し、重視度の値も高校生調査とほぼ一致する結果が出ていることを考えると、他の項目に関しては全国の高校生に比べてそれほど重要度が強い傾向になかったであろうと推測できる。

4.3 受験校決定時の期待度と入学後の評価

4.3.1 受験校決定時の期待度

山口大学の受験を決定する時、山口大学の

どのような点に期待して決めたかをみたのが表12である。設問は山口大学に関する18の項目についてそれぞれどの程度期待を抱いたか「非常に期待した」「ある程度期待した」「あまり期待しなかった」「全く期待しなかった」の4段階評価を求めたが、この表では

表12 受験校決定時の期待度

(%)

	全体	人文	教育	経済	理	医		工	農	
						医	保健		農	獣医
少人数教	16.1	24.6	23.5	18.3	11.9	15.9	12.0	10.9	10.0	26.7
教育カリ	40.4	54.1	41.8	34.1	44.8	45.1	62.4	33.0	36.0	26.7
TOEIC	28.3	35.4	24.8	34.5	23.9	18.5	40.2	24.3	20.0	33.3
セメスター	11.6	19.1	12.9	11.5	6.7	9.8	19.1	8.8	12.0	13.3
実習演習	36.2	35.0	34.8	22.1	47.3	31.7	58.1	36.3	60.0	46.7
国際交流	25.0	39.3	24.2	24.7	18.4	15.9	47.9	20.2	18.0	20.0
資格取得	46.3	66.1	58.6	44.3	37.3	26.8	76.9	36.6	30.0	33.3
情報シス	35.0	45.9	31.1	30.2	35.5	25.6	45.3	36.0	36.0	13.3
教育スタ	39.5	55.7	42.6	29.4	42.3	37.8	55.6	35.2	42.0	26.7
カウンセ	15.3	23.0	17.5	13.0	17.9	13.4	20.5	11.1	16.0	13.3
就職支援	46.9	49.5	52.6	48.8	44.8	17.1	67.5	43.9	40.0	26.7
奨学金	31.1	36.3	33.5	28.9	34.8	24.4	46.2	27.4	20.0	20.0
授業評価	42.4	54.4	42.6	39.7	45.5	39.0	47.9	37.6	54.0	26.7
豊かな自然	53.4	62.8	59.0	56.0	59.2	51.2	53.9	41.1	76.0	66.7
充実図書	43.3	65.4	39.8	40.2	45.3	34.2	58.1	35.9	54.0	46.7
所在地	28.8	37.4	30.9	26.7	29.4	24.4	31.6	26.5	30.0	13.3
地域連携	18.5	26.5	20.3	17.6	18.0	19.5	18.1	16.8	8.0	13.3
ク活動	37.0	49.7	45.8	36.2	34.5	32.9	47.0	28.5	38.0	26.7

「非常に期待した」「ある程度期待した」を合算して分析した。全体でみて、半数以上が期待した項目は「豊かな自然」53.4%のみである。山口大学の学生は受験時に大学に対してそれほど期待して入学していないことがわかる。

学部別にみる上で、50%以上の期待度が表れている項目を太字・網掛けで示した。これを見ると、医学部保健学科と人文学部は他学部と比較して、多くの項目に期待して入学した学生が多いといえるだろう。逆に、工学部では半数以上の学生が期待した項目がなく、受験校決定時の大学に対する期待度はきわめて低いといえる。

項目ごとに、どの学部・学科で入学前の期待度が高かったかをみると、「少人数教育」は全般に期待が低い中で農学部獣医学科、人文学部、教育学部の期待度が高い。「教育カリキュラム」は医学部保健学科、人文学部の期待度が高く、「TOEIC教育」では医学部保健学科、人文学部、経済学部、農学部獣医学科で期待が高い。「実験・演習・実習」は農

学部、医学部保健学科、理学部、農学部獣医学科で、「セメスター制」「国際交流」「資格取得の支援」「情報システム」「教育スタッフ」「カウンセリング」「奨学金」「充実した図書」「所在地の利便性」「クラブ活動」などの項目はいずれも人文学部・医学部保健学科の期待度が高く、教育学部がこれに次ぐ。

「就職支援」は医学部保健学科と経済学部で特に高い。全般に期待の高い「豊かな自然」は農学部、農学部獣医学科できわめて高い。「授業評価」は人文学部と農学部での期待度が高く、「地域との連携」については人文学部、教育学部でやや高い。

4.3.2 入学後の評価

同じ項目について入学後1年を経過した時点での評価を示したのが表13である。この集計についても表12と同様に、評価できるかどうか4段階評価を求め、「非常に評価できる」「ある程度評価できる」を合算した。また、学部で50%以上の評価が表れた項目は太字・網掛けで示している。

表13 入学後1年を経過した時点の評価

(%)

	全体	人文	教育	経済	理	医		工	農	
						医	保健		農	獣医
少人数教	42.5	50.6	70.0	48.7	32.8	45.1	28.2	27.9	46.0	50.0
教育カリ	56.3	74.0	60.4	53.8	55.0	57.3	65.8	48.3	56.0	35.7
TOEIC	55.9	64.6	50.4	61.9	52.7	39.0	63.3	53.6	52.0	50.0
セメスター	31.2	37.7	50.0	26.5	22.4	24.4	47.0	24.3	26.0	42.9
実習演習	52.0	47.5	49.0	34.2	59.2	62.2	67.5	57.0	74.0	71.4
国際交流	38.6	53.3	34.0	41.4	36.3	19.8	65.2	32.0	32.0	35.7
資格取得	46.1	70.7	52.0	49.1	35.3	36.6	81.0	32.1	24.0	57.1
情報シス	58.1	67.4	53.6	49.6	59.6	58.0	84.5	56.0	58.0	71.4
教育スタ	55.4	71.3	55.2	48.0	56.8	53.7	74.1	50.3	54.0	64.3
カウンセ	34.4	47.5	40.0	31.5	36.8	23.2	56.0	23.8	40.0	57.1
就職支援	52.2	57.5	65.5	54.2	43.0	28.1	72.4	45.0	52.0	50.0
奨学金	52.9	65.9	55.6	51.5	52.2	39.0	66.4	47.8	52.0	35.7
授業評価	56.0	74.0	55.4	51.0	53.2	54.9	70.7	51.1	60.0	50.0
豊かな自然	76.5	88.3	81.2	78.3	79.9	69.5	76.7	66.9	86.0	92.9
充実図書	61.9	60.2	57.4	58.4	66.3	53.7	80.3	61.0	74.0	64.3
所在地	26.1	29.8	25.3	29.2	28.9	17.1	25.0	22.3	32.0	50.0
地域連携	28.5	37.0	32.8	28.4	25.0	28.1	24.6	25.7	28.0	28.6
ク活動	54.8	66.9	59.2	53.0	59.2	62.2	64.7	44.7	54.0	50.0

表12と比較して、各学部とも50%以上の評価項目が増えていること、つまり、受験時の期待よりも大学に入ってからの評価が高いことがわかる。全体でみると評価の高い項目は「豊かな自然」76.5%、「充実した図書」61.9%、「情報システム」58.1%である。

項目ごとにどの学部が評価しているかをみると「少人数教育」は教育学部、人文学部、農学部獣医学科で高い。「教育カリキュラム」は人文学部の評価が特に高く、次いで医学部保健学科、教育学部となっている。「TOEIC」は人文学部、医学部保健学科、経済学部で評価が高い。「 Semester制」は一般的に評価が低い、教育学部において半数の評価を得ている。「実験・演習・実習」は農学部、農学部獣医学科、医学部保健学科、医学部医学科で評価が高く、「国際交流」「資格取得」「教育スタッフ」「奨学金」「授業評価」は医学部保健学科、人文学部、「情報システム」「カウンセリング」は医学部保健学科、農学部獣医学科、「就職支援」は医学部保健学科、教育学部で評価が高い。「豊かな自然」は全体で最も評価されている項目であるが、中でも農学部獣医学科で92.9%と評価が

高い。「充実した図書」は医学部保健学科、農学部において評価が高い。「所在地」は全般に評価が低い項目であるが、農学部獣医学科では50.0%と他学部と比較すると突出している。「地域連携」も全般に評価が低い項目であるが、人文学部、教育学部で比較的高い評価が得られている。「クラブ活動」においては、人文学部、医学部保健学科、医学部医学科で評価が高い。

以上、総合的にみて、医学部保健学科と人文学部の評価が高い。しかし、この調査は入学後1年を経過した時点の評価であり、2年次以降にキャンパスが替わる医学部・工学部の学生にとって「所在地の利便性」「地域との連携」などの項目の評価が低いのは当然であるだろう。

次に、受験を決意するときの期待度と入学後1年経過した時点の評価の比較を表したものが図4ある。全体でみると、18項目中16項目で評価のほうが期待を上回っている。評価のほうが下がっている項目は、「所在地」のみで、「資格取得の支援」は期待と評価の割合に差はない。「所在地」は県庁所在地であることから相応の地方都市をイメージしたも

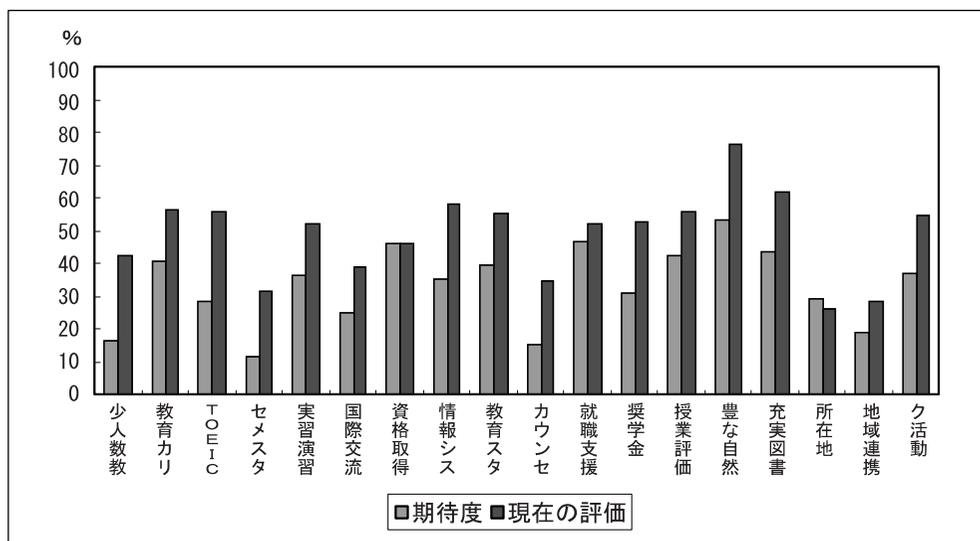


図4 期待度と入学後の評価

のと考えられるが、実際には予想外に都市機能に乏しいことを実感したのではないだろうか。

学部別の受験時の期待度と入学後の評価の差に注目しておきたい。入学後の評価と受験時の期待度の差を示したのが図5である。多くの項目で評価は上がっているが、細かくみ

ると、「資格取得の支援」について、教育学部、理学部、工学部での評価が下回っている。また、「就職支援」は理学部で、「充実した図書館」は人文学部で、それぞれ評価が下回っている。「所在地」は経済学部と農学部以外で下回っている。

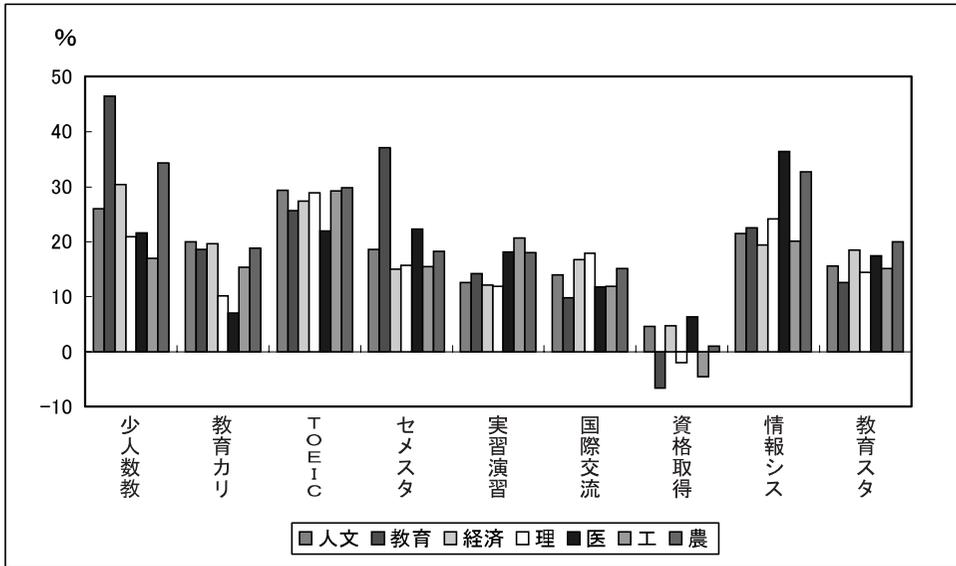


図5-1 受験時の期待と入学後の評価1-9

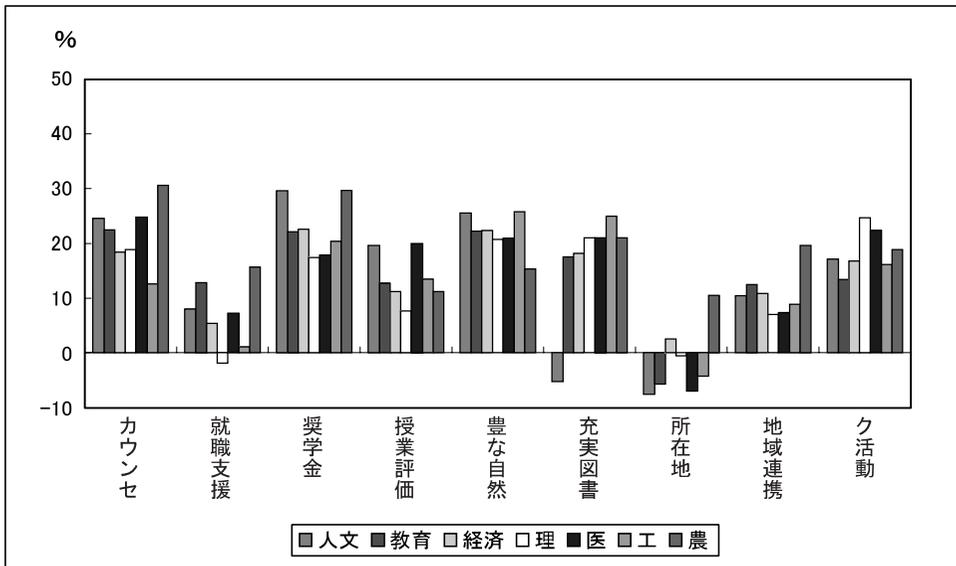


図5-2 受験時の期待と入学後の評価10-18

以上のことから、学部学科において、若干期待はずれだったという評価項目はあるものの、総合的にみて、期待して入学して来なかったが山口大学は意外と評価できる、つまり満足できるところだったと考えられる。山口大学の場合、第二志望以下で入学してくる学生が52.7%いるという状況から考えると、山口大学に対する期待も情報に対するニーズ

も低いことは現況をよく表しているといえるだろう。

4.4 大学教育を受ける目的

入学後1年を経過した時点での大学教育を受ける目的についての記述に対して、4段階評価を求め「非常にあてはまる」「ある程度あてはまる」を合算したのが表14である。

表14 大学教育を受ける目的

	(%)									
	全体	人文	教育	経済	理	医		工	農	
						医	保健		農	獣医
教養を身につける	88.6	95.6	92.0	89.3	89.0	80.0	93.9	83.9	90.0	86.7
やりたいこと	87.3	92.9	87.6	88.7	86.9	76.3	81.7	87.5	88.0	66.7
専門知識	92.1	90.1	92.7	87.9	91.9	97.5	100.0	92.3	96.0	100.0
大学院進学	39.9	28.2	28.1	13.7	67.8	32.5	31.3	59.9	54.0	20.0
何も考えてない	15.7	11.2	12.9	19.2	20.2	10.0	5.2	18.9	6.0	6.7

ほとんどの学生が「特定の職業に就くための専門知識や技能を身につけるため」「社会人となるためにふさわしい教養や見識を身につけるため」「将来の人生や職業を考えるに当たって、自分のやりたいことを見つけ出すため」のいずれの項目にも「あてはまる」と答えている。しかし、「何も考えていない」と答えた学生が15.7%存在し目的意識を持たずに大学生活を送っている点は看過できない。特に、理学部20.2%、経済学部19.2%、工学部18.9%は問題視すべき数値だといえよう。

5. まとめ

各学部学生の大学進学時における情報利用の実態で、特に際立った特徴は以下のとおりである。

【人文学部】

- 学部学科の志望理由は「やりたいことが明確に決まっていたから」80.3%で、他学部に比べ目的意識を持った学生が多く入学している。

- 進学情報源として、他学部同様「大学が作成した公表資料やホームページ」を最も多く利用しているが、とりわけ人文学部は77.4%と多い。「オープン・キャンパスや大学外で行う入試説明会・受験相談会によって得た情報」は大学全体で見るとそれほど利用している情報源とはいえないが、人文学部では比較的利用している。
- 大学全体では、受験時の山口大学に対する期待感が希薄である中で、比較的期待して受験し入学してきた学生が多い。
- 各項目とも受験時の期待度より入学後の評価が高いが、「所在地の利便性」と「充実した図書館」の評価は期待度よりも下回っている。

【教育学部】

- ほとんどの項目で、受験校決定時の期待よりも入学後1年経過した時点の評価のほうが高い中で、「資格取得の支援」「所在地の利便性」では評価が期待度よりも下回っている。
- 受験時の期待度と入学後の評価の差が最

も大きい項目は「少人数教育」であり、受験時の23.5%から入学後の70.0%へと46.5ポイントもの大幅な高い評価を示している。

【経済学部】

- ・ 大学全体で、第二志望以下で入学した学生が63.5%いるが、商業教員養成課程は全員が第一志望で入学している。
- ・ 学部学科の志望理由で、「あまり考えないで選んだ」20.9%は他学部と比べて最も多い。また、大学教育を受ける目的では「何も考えていない」学生が19.2%も存在する。
- ・ 受験時の期待と入学後の評価の比較で、他学部では「所在地」の評価が期待度よりも下回っているが、経済学部では評価が期待度よりも上回っている。

【理学部】

- ・ 進路選択時に重視した情報の内容は、「入学の難易度に関する情報」「入試科目に関する情報」のみで、それ以外の情報を重視した傾向はあまりみられない。
- ・ 受験時の期待と入学後の評価の比較で、「資格取得」「就職支援」は評価が期待よりも下回っている。
- ・ 学部学科の志望理由では、「あまり考えないで選んだ」13.4%で、経済学部、工学部に次いで高い値である。また、大学教育を受ける目的では、「何も考えていない」20.2%で、この値は他学部と比較して最も高い。

【医学部医学科】

- ・ 浪人が76.8%を占めており、他学部の現浪比とは全く逆の傾向になっている。
- ・ 学部学科の志望理由は「やりたいことが明確に決まっていたから」89.0%で、学部の特性からか他学部にならば明確な目的意識を持って入学している。
- ・ 進路選択時の進学情報源は、「高校で作成した進学資料」29.3%で最も少なく、「塾・予備校等関係者から提出される選抜資料や試験問題等の情報」78.1%が最も多

い。浪人の占有率から考えると当然の結果である。「オープン・キャンパスや大学外で行う入試説明会・受験相談会によって得た情報」は大学全体でみるとそれほど利用されている情報源とはいえないが、医学部医学科では比較的利用している。

- ・ 進路選択時に重視した情報の内容は、「入学の難易度に関する情報」「入試科目に関する情報」のウエートが圧倒的で、それ以外の情報の重視度はきわめて低い。

【医学部保健学科】

- ・ 進路選択時の進学情報源は、「高校で作成した進学資料」71.8%で他学部と比較して特に高い。
- ・ 全体に受験時の期待感が少ない中で、比較的期待感を抱いて入学した学生が多い。

【工学部】

- ・ 受験時の山口大学に対する期待で学生の半数以上が期待した項目はなく、受験時の期待度はきわめて低い。
- ・ 受験時の期待と入学後の評価の比較で、「資格取得の支援」では評価が下回っている。
- ・ 学部学科の志望理由で、「あまり考えないで選んだ」13.8%で、経済学部に次いで高い値である。また、大学教育を受ける目的では「何も考えていない」18.9%で、この値は理学部、経済学部に次いで高い値である。

【農学部】

- ・ 受験時の期待として「豊かな自然」76.0%は全学で最も期待度が高く、「実験・演習・実習」も60.0%と他学部にならば期待度が高い。
- ・ 受験時の期待と入学後の評価の比較で、他学部では「所在地」の評価が期待度よりも下回っているが、農学部の評価は期待度よりも上回っている。

【農学部獣医学科】

- ・ 県外出身者が93.3%を占めており、他学

部に比較して圧倒的に多い。

- ・ 学部学科の志望理由は「やりたいことが明確に決まっていたから」86.7%で、他学部には比べ明確な目的意識もって受験した学生が多い。
- ・ 進路選択時の進学情報源は、「大学が作成した公表資料やホームページ」「受験雑誌からの情報」がともに73.3%で利用が多い。とりわけ「受験雑誌からの情報」は他学部と比較して最も利用されている。また、「友人先輩からの情報」も40.0%で最も高い。「オープン・キャンパスや大学外で行う入試説明会・受験相談会によって得た情報」は全体でみるとそれほど利用されている情報源とはいえないが、獣医学科の学生は比較的に利用している。
- ・ 入学1年後の評価内容として、「豊かな自然」は全体で最も評価されている項目であるが、とりわけ獣医学科では92.9%と評価が高い。また、「所在地」は全般に評価が低い項目であるが、獣医学科では50.0%で他学部と比較すると突出している。

* * *

以上、学部の際立つ特徴と注目したい点を整理したが、この調査対象者は山口大学が法人化した年に入学してきた学生である。大学自体が法人化に向けての準備段階で、入試広報も手探り状態の時期であった。

この調査によって明らかになった「大学入学前の期待よりも入学後の評価のほうが高い」という結果は、学生にとって大学に期待を裏切られた実感はほとんどなく満足していると考えられるが、その背景に注目する必要がある。

その大きな注目点は「国立大学だから志望した」学生が7割を超えていることである。さらには山口大学を第二志望以下として入学してきた学生52.7%の存在、それらの学生の第一志望大学は他の「国立大学」86.6%である。これらの数値が示しているのは、山口大

学の学生は山口大学希望者というより、単に国立大学希望者に過ぎないということである。

また、進路選択時に重視した情報は「入学の難易度に関する情報」「入試科目に関する情報」で、情報源は「大学が作成した公表資料やホームページ」「高校で作成した進学資料」「受験雑誌からの情報」が中心である。学部学科の選択理由は、「やりたいことが明確に決まっていたから」58.1%で、明確な目的意識を持って学部学科を受験した学生は全体でみると6割にも満たない。4割の学生は明確な目的意識を持たずに学部・学科を選んでいる。これらを総合的にみて、山口大学の学生は、進学情報の利活用が十分行われているとは言い難く、様々な情報源を利活用して多くの情報を得ながら自分の意思や目的を再確認して受験に備えるという姿勢には乏しいと考えられる。山口大学は、県外出身学生の占有率が高いにもかかわらず、受験生たちの情報の利活用も乏しく、入学前の期待度においても最も高いのが「豊かな自然」といった大学とは直接関係のない項目が挙げられている。これらのことから、自分の学力相応である国立大学であれば山口大学でなくてもよい学生たちを多く受け入れている大学の現状が浮き彫りになる。

国立大学が法人化して3年目を迎えた今、仮にまだ「国立大学であればよい」という受験生の進路選択意識が根強いとしても、これに甘んじているわけにはいかない。重量入試科目の定着、一部の大学の後期日程廃止への動き、家庭経済の好転傾向などの状況は、昭和54年の共通一次試験導入後～バブル経済あたりにみられた国立大学凋落傾向の背景と似ているようにもみえる。当時、危機を回避できなかったのは、特色づくりに取り組んだ私立大学に比べて国立大学は努力を怠ったからではないだろうか。

国立大学の法人化は、個性豊かな大学づくりも重要な目的のひとつである。これまでの

国立大学は護送船団方式で運営されてきただけに、概してどの大学も一定水準の大差ない教育を施してきたといえるだろう。しかし、もはや教育に特色を見出せない国立大学に受験生が集まるとは考えにくい時代になりつつある。それぞれの国立大学法人が受験生に選ばれる大学づくりに取り組み、その特色を競い合う時代に入ったといえよう。

山口大学の教育体制は、現状のままですべて存続・発展させることが可能であるのか、社会や時代が求める人材育成に込めているのか、それぞれの学部学科が、今こそ学部の壁を低くして全学的な視点で学士教育のあり方を再考し、国民の負託に応える教育体制の再編・整備をしなければ、社会が要請する人材育成機関として存続することは次第に困難になるのではないだろうか。受験時の情報利用の実態を把握するための本調査ではあるが、大学として着手しなければならない喫緊の課題が読み取れる集計結果であるようにも考えられる。このような内なる整備を成し得てはじめて、外に向かってセールスポイントとしての情報提供が可能となるのである。

(アドミッションセンター 教授)

(アドミッションセンター 講師)

参考文献

- 中央教育審議会1999,「初等中等教育と高等教育との接続の改善について(答申)」
- 富永倫彦・三浦房紀2003,「大学進学意識と入学前後の学力・成績に関する調査分析」『平成14-15年度アドミッションセンター研究報告書』山口大学79-98
- 嶋野英彦他2004,『アドミッション・ポリシーと入学受入方針—大学における学生の入学受入方針に関する総合的調査研究—』大学入試センター研究開発部
- 大学新聞社2005,「国立大学の広報活動に関する意識調査報告」『大学新聞』2005.10
- 旺文社2005,『「螢雪時代」4月臨時増刊—全国大学学部・学科案内号』螢雪時代編集部
- 鈴木規夫・嶋野英彦2005,「進学情報の利活用に関する調査について(1)」大学入試センター・リサーチ・ノート, RN-04-24
- 富永倫彦・鈴木規夫・嶋野英彦2006,「大学進学時の情報利用に関する調査について」大学入試センター・リサーチ・ノート, RN-05-10
- 鈴木規夫・嶋野英彦2006,「高等学校における進学情報の利活用に関する調査」『大学における学生の受入方針に関する総合的調査研究Ⅱ』大学入試センター研究開発部
- 富永倫彦2006,「山口大学における大学進学時の情報利用に関する事例研究」『大学における学生の受入方針に関する総合的調査研究Ⅱ』大学入試センター研究開発部

付録

大学進学時の情報利用に関する調査

平成17年4月

山口大学アドミッションセンター
大学入試センター研究開発部

本調査は、受験生への今後のよりよい情報提供のあり方を探るために、山口大学と大学入試センターとの共同研究として実施するものです。

そこで、あなたの大学受験時における進学に関する情報活用の体験と、入学後の現在におけるこれらの情報に関するあなたの考えを、伺います。受験時の経験を通してあなたが感じたことや入学後の現在あなたが感じていることを踏まえて、お答え下さい。

<回答要領>

- ◎ 回答は別紙のマークシートを利用して下さい。
- ◎ マークは必ず鉛筆を利用して下さい。(ボールペンでは読み取りができません)

(回答者に関する質問)

マークシートの所定の欄に、マークして下さい。

【学部・学科名】

下表を参考にして、あなたの所属する学部・学科(課程)名に対応する番号をマークして下さい。

学部	学科(課程)				
①人文学部	① 人文社会学科	② 言語文化学科			
②教育学部	① 学校教育教員養成課程	② 実践臨床教育課程	③ 情報科学教育課程	④ 健康科学教育課程	⑤ 総合文化教育課程
③経済学部	① 経済学科	② 経営学科	③ 国際経済学科	④ 商業教員養成課程	⑤ 経済法学科
④理学部	① 数理科学科	② 自然情報科学科	③ 化学・地球科学科		
⑤医学部	① 医学科	② 保健学科			
⑥工学部	① 機械工学科	② 応用化学工学科	③ 社会建設工学科	④ 電気電子工学科	⑤ 知能情報システム工学科
	⑥ 機能材料工学科	⑦ 感性デザイン工学科			
⑦農学部	① 生物資源環境科学科	② 生物機能科学科	③ 獣医学科		

【性別】

あなたの性別 (①男、②女) をマークして下さい。

【入学区分】

あなたの所属する学部を受験した選抜方法（①前期日程、②後期日程、③推薦入学、④AO入試、⑤その他の選抜）をマークして下さい。

【現役・浪人等の別】

あなたの受験時に該当する項目（①現役、②浪人、③大検、④その他）をマークして下さい。

【出身高校の設置形態】（現役、浪人の方のみ回答）

あなたの出身高校の設置形態（①国立、②公立、③私立）をマークして下さい。

【出身高校の所在】（現役、浪人の方のみ回答）

あなたの出身高校の所在地（①山口県内、②山口県外）をマークして下さい。

【出身高校の在籍学科】（現役、浪人の方のみ回答）

あなたの出身高校での在籍学科（①普通科、②理数科、③総合科、④商業関係学科、⑤工業関係学科、⑥その他の専門学科）をマークして下さい。

1. 山口大学の志望順位と受験理由について

1.1 a. 山口大学は、あなたにとって第1志望の大学でしたか。あてはまるものいずれかを選んで、マークして下さい。

- ①第1志望だった ②第2志望以下だった

b. 上の質問で②と回答した方のみに伺います。第1志望であった大学は次のどれですか。あてはまるもの1つを選んで、マークして下さい。

- ①国立大学 ②公立大学 ③私立大学

1.2 あなたが今在籍している学部は、学部の種類としては第1志望でしたか。

- ①第1志望だった ②第2志望以下だった

1.3 あなたが山口大学を受験した理由について、あてはまるものを選んで、マークして下さい。

（複数回答可）

- ①入学難易度が自分に合っていたから（入学難易度）
②希望の学部・学科があったから（希望の学部・学科）
③教育内容に特色があったから（教育内容に特色）
④研究業績が高かったから（研究業績が高い）
⑤国立大学だったから（国立大学だから）
⑥環境がよかったから（環境がよい）
⑦地元の大学だったから（地元の大学だから）
⑧推薦入試やAO入試があったから（推薦・AO入試があった）
⑨第1志望に合格できなかったから（第1志望に合格できなかった）

1.4 あなたが現在在籍する学部・学科の受験を決めた理由について、最もあてはまるものを1つ選んで、マークして下さい。

- ①入学難易度が自分の学力に合っていたから（入学難易度）
- ②入試科目が自分に合っていたから（入試科目）
- ③やりたいことが明確に決まっていたから（やりたいこと）
- ④就職に有利だと思ったから（就職に有利）
- ⑤あまり考えないで選んだ（あまり考えないで選んだ）

2. 受験時の情報利用について

2.1 あなたは進学情報をどのような情報源から得ていましたか。以下に挙げた(1)～(10)の進学情報源について、利用した程度を下欄の①～④の評価基準に従って評価し、最もあてはまるものを1つ選んで、マークして下さい。

- | | |
|------------|-------------|
| ①全く利用しなかった | ②あまり利用しなかった |
| ③ある程度利用した | ④よく利用した |

- (1) 高校で作成した進学資料（高校で作成した進学資料）
- (2) 大学が作成した公表資料やホームページ（大学の公表資料）
- (3) 受験雑誌からの情報（受験雑誌からの情報）
- (4) 塾・予備校等関係者から提供される選抜資料や試験問題等の情報（塾・予備校等からの情報）
- (5) 友人・先輩からの情報（友人・先輩からの情報）
- (6) 家族からの情報（家族からの情報）
- (7) 大学教員による出前授業からの情報（出前授業からの情報）
- (8) 大学で受講した講義等からの情報（講義等からの情報）
- (9) オープン・キャンパスや大学外で行う入試説明会・受験相談会によって得た情報（入試説明会等からの情報）
- (10) マスコミ・出版社による大学ランキング等の評価情報（マスコミ等による評価情報）

2.2 あなたが進学先を決定する時、どのような情報をどの程度重視して決定しましたか。以下に挙げた(1)～(20)の情報について、それぞれ下欄の①～④の評価基準に従って評価し、最もあてはまるものを1つ選んで、マークして下さい。

- | | |
|------------|-------------|
| ①全く重視しなかった | ②あまり重視しなかった |
| ③ある程度重視した | ④非常に重視した |

- (1) 推薦入学やAO入試の有無に関する情報（推薦入学・AO入試の有無）
- (2) 入試科目に関する情報（入試科目）
- (3) 入学の難易度に関する情報（難易度）
- (4) 大学教員の研究内容に関する情報（研究内容）
- (5) 少人数教育の実施に関する情報（少人数教育）

- (6) 多様な履修コースに関する情報(履修コース)
- (7) カリキュラムの内容に関する情報(カリキュラム)
- (8) 図書館や情報検索のための情報システム等の施設・設備に関する情報(施設・設備)
- (9) 豊富な実験・演習・実習による授業の展開に関する情報(実験・演習・実習)
- (10) 補習授業や学習アドバイザー等によるバックアップ体制に関する情報(補習授業)
- (11) 資格取得のための支援体制に関する情報(資格取得)
- (12) 奨学金や特待生制度等の有無及びその内容に関する情報(奨学金)
- (13) 大学の教育理念・教育目標に関する情報(教育理念)
- (14) 大学の社会的評価に関する情報(社会的評価)
- (15) 卒業後の進路状況に関する情報(卒業後の進路)
- (16) 入学金や教育費、生活費に関する情報(入学金等)
- (17) クラブ・サークル活動に関する情報(クラブ活動)
- (18) 交通の利便性に関する情報(交通アクセス)
- (19) アパート・下宿等に関する情報(住環境)
- (20) 在学生のナマの声による情報(学生のナマの声)

3. 受験校決定時の期待度と入学後の印象について

A. 山口大学の受験を決定する時、山口大学のどのような点に期待して決めましたか。下欄に A. B 共通項目として掲げた(1)～(18)について、それぞれ受験時の期待度を次の①～④の評価基準に従って評価し、最もあてはまるもの1つを選んで、マークして下さい。

- | | |
|------------|-------------|
| ①全く期待しなかった | ②あまり期待しなかった |
| ③ある程度期待した | ④非常に期待した |

B. 山口大学に入学して1年を経過した今では、(1)～(18)の項目についてどのように感じていますか。現在における評価を次の①～④の評価基準に従って評価し、最もあてはまるもの1つを選んで、マークして下さい。なお、現時点でまだ直面していない項目も、あなたの予測で評価して下さい。

- | | |
|------------|------------|
| ①全く評価できない | ②あまり評価できない |
| ③ある程度評価できる | ④非常に評価できる |

A. B. 共通項目

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| (1) 少人数教育 | (2) 教育カリキュラム | (3) TOEIC 教育 |
| (4) セメスター制 | (5) 実験・演習・実習 | (6) 国際交流 |
| (7) 資格取得の支援 | (8) 情報システム | (9) 教育スタッフ |
| (10) カウンセリング | (11) 就職支援 | (12) 奨学金 |
| (13) 授業評価 | (14) 豊かな自然 | (15) 充実した図書館 |
| (16) 所在地の利便性 | (17) 地域との連携 | (18) クラブ活動 |

4. 大学教育を受ける目的について

1年間の大学教育を受けた今、あなたにとって大学教育(学部)の目的は何だと考えていますか。以下の(1)～(5)の各項目について、現在のあなたの考えに最もあてはまるものを下欄の①～④のうちから1つ選んで、マークして下さい。

- | | |
|------------|-------------|
| ①全くあてはまらない | ②あまりあてはまらない |
| ③ある程度あてはまる | ④非常にあてはまる |

- (1) 社会人となるためにふさわしい教養や見識を身につけるため。(教養を身につける)
- (2) 将来の人生や職業を考えるに当たって、自分のやりたいことを見つけ出すため。(やりたいことを見つける)
- (3) 特定の職業に就くための専門知識や技能を身につけるため。(専門知識や技能を身につける)
- (4) 大学院に進学するため。(大学院へ進学)
- (5) 何も考えていない。(何も考えていない)

5. アドミッション・ポリシー (AP) について

近年、「大学入学者選抜は、それぞれの大学教育に必要なものとしてどのような能力を受験生に求めるのか、大学教育に必要な能力をどのように評価するのかをこれまで以上に明確に対外的に示していくことが望まれる。このため、大学は、受験生に求める能力、適性等についての考え方をまとめた入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)を明確に持ち、これを対外的に明示するとともに、実際の選抜方法や出題内容等に反映させることが重要である。」といわれるようになってきています。

5.1 あなたは、大学受験時、「アドミッション・ポリシー」とか「入学者受入方針」という言葉を聞いたことがありましたか。

- ① ある ② ない

5.2 別添の資料は、山口大学におけるあなたが在籍する学部・学科(課程)のアドミッション・ポリシー(16年度)です。あなたが在籍する学部・学科(課程)のアドミッション・ポリシーを見て、その記述があなたに合致しているかどうかを、それぞれ()のついた番号の項目ごとに、下欄の①～④の評価基準に従って評価し、最もあてはまるものを1つ選んで、マークして下さい。なお、アドミッション・ポリシーは学部・学科(課程)によりその数が異なります。

- | | |
|-------------|-------------|
| ①合致していない | ②あまり合致していない |
| ③ある程度合致している | ④合致している |

5.3 山口大学が発信するアドミッション・ポリシーについて、あなたはどのように受け止めていますか。以下の(1)～(5)のことがらについて、次の①～④の評価基準に従って評価し、それぞれ最もあてはまるものを1つ選んで、マークして下さい。

①全くそう思わない ②あまりそう思わない ③ある程度そう思う ④非常にそう思う

- (1) 山口大学のアドミッション・ポリシーの内容はあいまいで分かりにくい。(内容が分かりにくい)
- (2) 志望校や学部・学科を決める上で参考になる。(志望校を決める上で参考になる)
- (3) 山口大学がアドミッション・ポリシーとして掲げている「求める学生像」に関する表現は具体的に分かりやすい。(表現は分かりやすい)
- (4) 山口大学がアドミッション・ポリシーとして掲げている「求める学生像」は理想であって、現実にはそのような理想に合致する学生はいないと思う。(合致する学生はいない)
- (5) アドミッション・ポリシー等を示す際に用いられる用語や表記・表現が難解すぎる。(難解な言葉)

5.4 アドミッション・ポリシーとして示してほしいことがら

アドミッション・ポリシーとして具体的にはどのようなことがらが示されるべきだと思いますか。以下の(1)～(10)のことがらについて、アドミッション・ポリシーとして示す必要性の程度を下欄の①～④の評価基準に従って評価し、最もあてはまるものをそれぞれ1つ選んで、マークして下さい。

①全く必要でない ②あまり必要でない ③ある程度必要である ④非常に必要である

- (1) 高校で学習しておくべき教科・科目の指定とその到達度水準の明示(教科・科目の指定)
- (2) 特に期待する資質の明示(例えば、課題解決能力、リーダーシップ、目的意識等)(特に期待する資質)
- (3) 学業以外の特筆すべき経験(受賞、スキル<外国語等>、卓越したリーダーシップを発揮した経験等)に対する評価基準の明示(学業以外の評価基準)
- (4) 大学入学後の教育によって達成される能力像の明示(達成される能力像)
- (5) 学部間の違いが簡明に分かるような表の作成・添付(比較可能な表の作成)
- (6) 同一県内の受験生や一芸に秀でた者等に対する特別措置・優遇措置等の有無の明示(特別措置の明示)
- (7) 面接や小論文における評価基準についての明示(面接等の評価基準)
- (8) 多様な選抜方法を実施する目的の明示(多様な選抜の目的)
- (9) 入学後の教育において、特に配慮している内容の明示(入学後の特別配慮内容)
- (10) 生徒に分かりやすい語彙や表現による概念・内容の明示(分かりやすい言葉)

—— ご協力ありがとうございました ——